

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871400267
法人名	(株)新風会
事業所名	グループホーム蒼月
所在地	愛媛県西予市宇和町岡山545番地
自己評価作成日	平成27年9月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 10 月 15 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内からいつでものどかな田園風景を見て、四季折々の自然を身近に感じることができる。利用者、家族、職員間において、信頼関係を大切にし、何でも話し合える関係作りに努めている。ここ2.3年で若い職員が増えているが、自分の家族のように話したり、又、相談したりと利用者に親しまれている。又、日常の何気ない会話で体調や心理状態にも気を配り、なるべく希望にそえるよう心掛けている。地域の方からは催し物があれば声を掛けてくださり、地域住民の一員として地域の皆様に支えられながら運営出来ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな環境にある事業所は、宇和盆地の北部にあり、田園に囲まれた四季折々の風情を感じることができる。広々とした敷地に建つ洋館風の建物で開設10年目を迎える。職員の異動が多い中、今年6月には管理者の異動があり、就任5か月目の管理者は職員とのコミュニケーションを大切に今までの運営を継続しながら、利用者がのんびりと穏やかに過ごせるように職員と一緒に熱心に取り組んでいる。利用者が地域とかかわりながら過ごせるよう外出を多く取り入れ、併設しているデイサービスとの交流も日常的に行われている。また、地域とかかわりを積極的に持ち自己研鑽のため研修等にも力を入れている。今後、更なる発展が期待できる事業所である。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム蒼月

(ユニット名) 第2ユニット

記入者(管理者)

氏 名 栗林淳美

評価完了日 27 年 9月 21日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 職員全員で共有し、又、実践に繋げるよう事業所理念、フロア理念を作り、個人目標を立てフロア内に掲示し、努力している。年度末には職員全員で各理念について話し合い、個人目標においては自己評価したうえで管理者と話し合い、次年度に繋げていけるよう努めている。	
			(外部評価) 法人理念と事業所理念、そして職員一人ひとりの年間個人目標がフロア内の見やすい場所に掲示され、日々、実践に励んでいる。事業所理念と個人目標は年末に振り返りを行っている。また、経験の浅い職員が多い中、今年6月に管理者の交代があったが、理念についての意識づけは徹底され、常にサービスの質の向上に向け取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の方と相談しながら、行事や掃除等に参加して交流している。又、保育園や小学校の運動会や発表会にも参加させて頂いている。施設の行事にも参加して頂いており日常的に交流できるよう努めている。	
			(外部評価) 地区の敬老会、集会所掃除への参加や小学校の運動会見学や保育園のお遊戯会総練習の見学など地域との交流をしている。毎年恒例の納涼祭では、雨天にもかかわらず近隣住民や大勢の子供たち、他事業所G Hの利用者と職員等の参加があり、カラオケボランティアの披露やスイカ割り等で賑やかな納涼祭となった。散歩や外出時に近隣住民と会話するなど日常的な交流もある。また、訪問調査日が地方祭当日と重なり、玄関先で牛鬼や五つ鹿踊りの舞いを見て笑顔で手拍子、拍手で喜ばれる利用者を見ることができた。昨日も祭りのため、保育園児の訪問があったりと確実に地域とのつながりは深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の方々には散歩の時の様子や、納涼祭に参加して頂き、ある程度の理解は出来ていると思われるが、今後は介護教室を開き、地域に貢献したい。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、利用者やその家族、地域の方々とサービスの現状や要望などを話し合い、より良いケアサービスに努めている。地域の方から行事参加の声かけをして頂くこともある。職員についてはなかなか参加出来てないが業務カンファレンス、議事録の回覧などで理解を深めるよう努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議は利用者、家族、市担当者、民生委員、区長、近隣住民、他事業所GH職員など、幅広い参加者を得て開催されている。小学校・保育園関係者への参加を呼びかけたが参加には至っておらず、今後も呼びかける予定である。また、次回より地元消防団に参加をしてもらう予定である。会議では事業所の利用状況や活動報告を行い、参加者と意見交換をしている。管理者が区長へ「地域と今以上に関わりを持ちたい」と相談したところ、集会所掃除への参加を提案してもらい、管理者と利用者数名で参加した。事業所を知ってもらう良い機会となり、事業所自体が地域の一員となるよう取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議のメンバーであり、なんでも相談できる関係が出来ている。又、2ヶ月に1回介護相談員の訪問があり、利用者の意見を聞いたり様子を見て頂き、相談員の意見を話し合い、日頃のケアサービスに活かしている。	
			(外部評価) 市職員は毎回運営推進会議に参加し、事業所の利用状況や取組みについて報告し意見交換している。家族から住所地特例の相談を受けた際は、市担当者に相談し速やかに対応することができたへん喜ばれた。また、2カ月に1度、介護相談員の受け入れもあり利用者と話しやすい関係が築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束に関しては業務カンファレンスで話し合い、理解を深めるよう努めている。昼間は戸口の開放をし、夜間のみ玄関を施錠、又、居室の戸口に施錠はなく自由に出入りできるよう拘束をしないケアサービスに努めている。	
			(外部評価) 職員が利用者に寄り添い見守ることで身体拘束をしないケアに取り組んでいる。今月の業務カンファレンスで身体拘束をしないケアについて勉強会を行う予定である。言葉での拘束についても職員全員で意識しながら適切な対応をするよう心がけている。日中は玄関の施錠をしておらず、利用者が自由に出入りすることができるよう配慮されており、見守りケアを徹底している。夜間のみ安全面に配慮し玄関の施錠をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 利用者の状態を職員全体で共有できるようにケアカンファレンスを行い、又、介護記録や業務日誌等に記録することで防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 法人全体で学ぶ機会を持っている。又、成年後見制度を利用している利用者もいるため、職員全体が理解できる勉強会を実施して行くよう努めたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約、解約時は利用者、家族の意向を聞きながら、十分な説明を行い、理解、納得して頂いた上で契約、解約を交わしている。契約の改正等の際はその都度説明を行い、書面にて同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 誰にでも意見や要望を投函して頂けるよう、事業所玄関に意見箱を設置している。意見については、職員全体で話し合い、真摯に向き合い対処していくよう努めている。又、事業者便りや手紙にて利用者の様子が分かるように努めている。	
			(外部評価) 利用者には日常生活の中で確認し、家族には毎月ホーム便り「蒼い月」を発送しホームの様子を伝えるほか、担当職員が手紙を添え近況報告を行い、ケアプラン見直しの際には必ず要望を聞くように努めている。また、面会時や家族会は利用者や家族の意見を聞く良い機会となっている。「歩行練習をさせて欲しい」など、家族からの要望にも早急に対応するように心がけている。「ここに来て表情が明るくなった」と喜ばれることもあった。玄関には意見箱を設置し意見を出しやすいように工夫をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 業務カンファレンス、ケアカンファレンス等を利用し、職員が自由に発言できる機会を設けている。又、日常的にも意見や提案を言いやすい環境作りに努めている。管理者は管理者会議などを利用し、職員の意見や提案を報告し、その都度協議している。 (外部評価) 毎月、業務カンファレンスを開催し、勉強会や事例検討等、職員同士で活発な意見交換を行っている。現場での課題や意見を出し合い、申し送りノートを使用し職員全員で共有している。管理者は職員の意見を尊重しシフトを組むなど、コミュニケーションを図りながら、働きやすい職場環境や信頼関係づくりに努めている。献立委員から、野菜が高いため代替野菜へ変更の申し出があり、管理者は本部の了解を得て、別の食材で補うなど上手な活用方法をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 勤務年数、経験年数にこだわらず努力や実績を把握している。本年度より介護職員処遇改善手当支給により少々給与がupされたがまだまだ満足していない職員が多い。又、労働時間においても休憩時間が満足に取れていない。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 代表者は職員個々の能力に応じた研修を受ける機会を与えて、より良いケアサービスが出来るよう職員を育てている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 愛媛県地域密着型サービス協会に加入しており、毎月の研修会に出席し同業者と交流できている。又、ボランティア受け入れの会議に出席するなどネットワーク作り、他施設の運営推進会議においては管理者以外の職員も参加しており、質向上に努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人が安心して暮らせるように何にでも真剣に耳を傾け信頼関係が築けるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 契約前の事前調査の段階で本人やご家族から困っている事や 不安な事、要望など十分に耳を傾けて信頼関係が築けるよう 努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 本人の状態を見たり、想いを聞いたりすることでまず必要と している支援を見極め、本人や家族が必要としている希望に 出来る限り沿うように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 利用者により多くふれあい、信頼関係を築くことで相談した り、されたり、共に過ごし支え合う関係を築くよう努めてい る。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者の生活の状況、身体の状態などの報告を3か月に1回 家族に手紙でお知らせしたり、面会時に近況などをお知らせ したりすることで関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 誰でもいつでも面会に来て頂けるように努めている。又希望 があれば馴染みの美容室に行ったり、病院を受診したりして 本人の希望に沿ったサービスが出来るように努めている。 (外部評価) 日常的に家族や近所の方、併設のデイに来た知人の面会があ り、盆と正月には特に多くの面会がある。外食に出掛けたり 馴染みの美容室へ行ったり、お墓参りに行くなど家族の協力 を得ながら支援されている。また近所の方との会話を楽しん だり、野菜などのお裾分けをもらうこともある。面会の少な い家族へは電話連絡するなど、少しでも馴染みの関係が継続 できるよう支援に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者個々の特性を把握し、その上で利用者同士が関わり合え、支え合えるように支援し、孤立せず楽しく暮らしていけるよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス期間が終了しても必要に応じて相談や支援に努めている。長期入院の為に退去になった利用者に対しては職員が休みの際に見舞いして関わりを大切にしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 声かけをすることで思いや暮らし方の希望、意向等の把握に努めている。本人の表情や生活の状況などを観察し本人の想いを理解するよう努めている。 (外部評価) 職員は利用者一人ひとりに向き合いながら、ちょっと小耳にはさんだことでも気に留めて思いや意向を把握するよう努めている。利用者の「栗が食べたい」「買い物に行きたい」という思いを聞き、栗ごはんを作ったりオズメッセに行くなど可能な限り実現できるよう努めている。食べ物の要望は比較的多いが、「ここでの生活にとっても満足している。」「ここに来て状態が良くなった。」と嬉しい声を聞くこともある。また、思いを言い表すことが困難な利用者に対しては、ふとした時に出た言葉やしぐさから利用者の思いを感じ取っている。把握した情報は申し送りノートに記録し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前調査での情報からこれまでの暮らしの把握をするように努めている。又、入居後声かけにより、生活歴、環境などをすることで家での生活が少しでも継続できるように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 介護記録や経過観察記録などにより、又、業務日誌で各フロア夜勤者が申し送りをし、職員全員に情報が共有出来ている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) サービス担当者会議には出来るだけ本人、家族の方にも出来るだけ参加して頂き、現時点での必要なケアが出来るように意見をだし合い介護計画を作成している。参加出来ない場合は事前に電話や面会時に要望を聞き、意見を取り入れている。 (外部評価) 担当者会議には家族の参加も多く、利用者や家族の思いや意向を反映した介護計画となっている。担当者会議に欠席の家族には事前に要望を聞くようにしている。「歩行させて欲しい。」との要望でマッサージ等から始めるケースや、手先の器用な現在99歳の方の介護計画には「折り紙でいろいろな作品を作り続けたい」を目標にするなど、前向きに取り組めるように支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子やケアの実践、気づき等介護記録に記入し、その他業務日誌等でスタッフ全員に情報を共有し、介護計画の見直しに活かすように努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人の状況に応じて、その時々スタッフで話し合い、本人、家族に相談してより良い状態での生活ができるように努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 田畑の作物の成長を見たり、散歩に行き、川のせせらぎを聞き、自然を感じて頂く様に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人、家族の要望により、かかりつけの医師により医療をう けられている。又、本人、家族の同意のもと、月2回の医療 連携担当医による往診や週1回、看護師が訪問し日常の健康 管理に努めている。緊急時にも適切な医療体制作りができて いる。 (外部評価) 利用者や家族の希望で協力医療機関がかかりつけ医となっ ている。月に2回の往診と週に1回の訪問看護がある。緊急時 の医療連携が確実にいえるよう体制が整っている。専門医の 受診は家族の協力を得ているが、歯科は事業所の近くのため、 職員の同行で安心して継続受診できるよう支援している。また、 インフルエンザの予防接種は全利用者対象に接種 予定である。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 利用者の健康管理や状態に変化があれば、医療連携担当医に 連絡して対応している。又、週1回医療連携看護師の訪問に より、相談が出来、適切な医療が受けれるよう支援してい る。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院された際には出来る限りお見舞いに行き、声かけを行 い、安心して治療して頂くよう努めているが、医療機関とは 入退院の話し合いはあまり出来ていない。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時に本人、家族との話し合いの中で意向を聞き、方針は 共有できている。状態によりその時々相談しながら支援し ている。 (外部評価) 看取りの経験があり、状況の変化に応じ、利用者や家族等の 意向をその都度確認しながら、思いを受け止め納得のいく穏 やかな最期を迎えられるよう取り組んでいる。また、職員の 不安解消に努めていくことも大切だと考え、本部での研修に 参加したり、事業所内でも勉強会を行い看取りケアに前向き に取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時のマニュアルは作成しており、医療体制、又は事故発生時においてもすぐに対応できるよう全職員に周知している。今年、急変した方がいたが、その場の職員により適切な処置が出来た。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回消防署指導のもと、地域住民に参加して頂き、避難訓練を実施している。緊急時の連絡網及び、参集計画、役割分担計画をすぐ見えるところに掲示して、全職員に周知している。 (外部評価) 年に2回の防災訓練と年に1回の避難訓練を行っている。11年には地元消防団の参加を得て昼間帯の火災を想定して避難訓練を行う予定である。前回の避難訓練では2階、3階の利用者は階段を使って避難を行ったが、階段が狭くかなり時間がかかり、消防署からの助言があった。また、備蓄品はガスコンロ・ラジオのみ準備している。	避難訓練には初めて地元消防団の参加となるため、ぜひ具体的な協力内容などを話し合って欲しい。また、狭い階段での避難のため、近隣住民の協力は必要不可欠である。訓練への継続した参加協力を呼びかけ、さらなる協力体制が築けることを期待したい。また、管理者は備蓄品の用意が不十分であると認識していることから、内容や数量等を充実させていくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人の人間として尊重しその方の誇りやプライバシーを傷つけることなく毎日過ごして頂く様に努めている。業カンやケアカンにおいて日々のケアについて気づいたことを話し合い、より良い言葉かけや対応を心掛けている。 (外部評価) 一人ひとりの気持ちを大切にして、利用者の状況に合わせた声かけのタイミングや声の大きさに配慮した対応を心がけている。担当職員制を取り入れ、利用者の気持ちを大切にしたケアを実践できるように取り組んでいる。また、馴れ合いを回避するために、担当職員の交代を必要に応じて行い、羞恥心や誇りを損ねない支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者とかかわりを多くもつことで、その方の想いや希望を知ることが出来るので、できる限り声かけや話し相手になっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者それぞれの生活ペースを崩すことがないように声かけしたり、観察したりしている。希望があれば出来る限り希望に添えるように努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 洗顔、整髪は毎朝行い、衣類の汚れがあれば着替えするよう声かけ、支援している。入浴の際の着替えを自分で選んでもらっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 出来ることは手伝って頂き、作る～食べる楽しみとなるように支援している。皆でテーブルを囲み、楽しい雰囲気です食事して頂く様支援している。又、旬のものをなるべく取り入れ、季節を感じて頂く様努めている。	
			(外部評価) 献立は系列のGHが2カ月交替で作成している。事業所の献立委員が献立内容を確認し、利用者の希望を取り入れながら見直しを行っている。利用者と職員が同じテーブルを囲み和やかな雰囲気です食事をしている。支援の必要な利用者には、職員が横に座り利用者のペースに合わせて援助している。誕生会には手作りケーキ、お正月にはおせち、節分やクリスマス等季節を感じながら食事に楽しみが持てるよう工夫している。年に2～3回は外食し、先月は回転ずしを食べに行った。また、用意や片付けなど利用者と職員が一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養バランスのとれた食事を提供している。毎食後食事量、水分量を確認、記録している。ひとりひとりの状態にあわせ、声かけを行い、栄養や水分が確保できるように支援している。1か月に1回体重測定を行い、健康管理に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアの声かけをして洗面台で実施している。自力で出来ない方はガーゼで拭き取り口腔内の清潔に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄を記録し、職員全員が排泄パターンを把握できており、声かけやトイレ誘導をしてなるべくトイレで気持ち良く排泄して頂く様努めている。	
			(外部評価) 排泄チェック表を活用して一人ひとりの排泄パターンを把握しており、日中はできる限りトイレで排泄できるよう努めている。ユニット内には4か所のトイレがあり、自立度に応じてトイレを選び使用している。リハビリパンツや尿パットを使用したり夜間のみポータブルトイレを使用したりするなど、利用者の状態に合わせて自立を促している。また、布パンツを使用する利用者もあり、用品の工夫を行いながら、一人ひとりの状態に合わせた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 薬に頼るのではなく、水分量や食材に気を付けたり、食前や食後にトイレに行く習慣をつけてもらっている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 先ず希望を聞き、入浴して頂いている。それぞれの希望のお湯の温度や入浴時間なども把握しており、気持ちよく入浴出来ている。入浴が苦手な方も日頃のコミュニケーションや声かけを工夫し支援している。	
			(外部評価) 入浴は3日に1回を目安に回数を限定せず、利用者の希望に沿って、毎日いつでも入浴ができるように準備されている。利用者の身体状況に応じて滑り止めマットやシャワーチェアの使用、体調不良時には清拭を行うなど、気持ちよく安全に入浴ができるよう支援されている。入浴の苦手な利用者には、お気に入りの職員からの声かけやタイミングを工夫するなどの支援をしている。また、入浴の着替えの準備は利用者と職員が一緒に行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 昼の間でも居室でも希望されるときに自由に横になって休んで頂いている。又、起床や就寝についても本人の生活習慣を大切にするよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者の既往症を理解し服用されている薬についての知識を習得し服薬支援している。体調の状態に応じてケアカンで話し合い、かかりつけ医に報告している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者それぞれの生活歴、好み等を考慮し、出来る事は声かけし作業してもらっている。毎日、張りのある生活で笑顔で過ごして頂く様に努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 年間を通しては日常的にはなかなか外出できていないが、ホーム周辺の散歩は気候の良い時期は積極的に出かけるように心がけている。又、外出の希望があれば出来る限りそえるように努めている。 (外部評価) 日常的に事業所周辺を散歩したり、玄関先で外気浴したりして気分転換できるよう努めている。また、読書の好きな利用者と一緒に近くの公民館まで本を借りに行ったり、郵便局に手紙を出しに行ったりと、外出の機会が多い。年間行事としてフラワーパーク、おさかな館、新谷菖蒲園等、季節毎の外出支援を実践している。11月には紅葉狩りを予定している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的にお金の管理はホームの金庫で預かり、必要に応じて出金し、こづかい帳に記載し管理している。本人の希望があれば家族と相談して所持してもらっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望があれば、いつでも連絡できるような体制は整っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用の空間はいつでも居心地良く過ごせるように明るさや温度、湿度、清潔につとめている。壁に季節のものを掲示したり、フロア内に季節の花を飾ったりして季節感を味わって頂く様工夫している。	
			(外部評価) 暖かい光が差し込み明るく落ち着いた雰囲気の間となっていて、対面キッチンから全体を見渡すことができ、利用者は自由に行き来している。壁には利用者の作ったわらじや折り紙の作品を展示したり、利用者と一緒に作った紅葉の飾り付けや洗面台の生け花等季節を感じることができる。利用者は畳のコタツで自宅から持参した座いすに座りくつろいだり、テレビを見たり、おしゃべりを楽しんだり、思い思いの場所で穏やかな時間を過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共用空間も食堂と畳の間に分かれており、それぞれ思い思いに過ごせる居場所は確保できている。廊下にもベンチが置かれており、会話を楽しんだり、外の景色を眺めたりできる場所になっている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居時に家族と話し合い、本人の使い慣れたもの、好みのものを使って頂く様にしている。本人が自分の家として居心地良く過ごすことができるように家具の配置なども工夫している。	
			(外部評価) 居室には、ベッド、整理ダンス、洗面台、エアコンが備え付けとなっている。仏壇や位牌、テレビやイスを置いたり、家族写真や曾孫さんの写真を飾ったりと使い慣れたものや好みのものを持ち込まれ、利用者が居心地よく過ごせるような部屋づくりがされている。また、入口にはかまぼこ板で作った名札が掛けられ、裏には「避難済み」と記入し、災害時に備えた配慮もしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下、トイレ等に手すりを設置している。その他にちょっと腰かけたり休んだりできる量の空間がある。又、出来る力を使ってもらえるように見守りすることを心掛けている。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871400267
法人名	(株)新風会
事業所名	グループホーム蒼月
所在地	愛媛県西予市宇和町岡山545番地
自己評価作成日	平成27年9月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 10 月 15 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の想いを大切に、個人の能力を生活に活かし、職員、利用者、みんなで協力し合って、炊事、洗濯等して頂き、はりのある生活をしています。又、利用者様が考えておられる事が叶えられるように努めています。田んぼや山などの自然に囲まれた地域です。散歩や外出等の機会を多くもち、地域の方々と交流したり、隣町で外食したりと充実した時間を作っています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな環境にある事業所は、宇和盆地の北部にあり、田園に囲まれた四季折々の風情を感じることができる。広々とした敷地に建つ洋館風の建物で開設10年目を迎える。職員の異動が多い中、今年6月には管理者の異動があり、就任5か月目の管理者は職員とのコミュニケーションを大切に今までの運営を継続しながら、利用者がのんびりと穏やかに過ごせるように職員と一緒に熱心に取り組んでいる。利用者が地域とかかわりながら過ごせるよう外出を多く取り入れ、併設しているデイサービスとの交流も日常的に行われている。また、地域とかかわりを積極的に持ち自己研鑽のため研修等にも力を入れている。今後、更なる発展が期待できる事業所である。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム蒼月

(ユニット名) 第1ユニット

記入者(管理者)

氏 名 渡部ちひろ

評価完了日 27 年 9月 21日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 年末の業務カンファレンスで、理念や個人目標が実践されたか話し合いを行い、次年度に繋げれるように努力している。 (外部評価) 法人理念と事業所理念、そして職員一人ひとりの年間個人目標がフロア内の見やすい場所に掲示され、日々、実践に励んでいる。事業所理念と個人目標は年末に振り返りを行っている。また、経験の浅い職員が多い中、今年6月に管理者の交代があったが、理念についての意識づけは徹底され、常にサービスの質の向上に向け取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 小学校運動会、地域の敬老会、秋祭りの牛鬼や鹿の子踊りを見学し参加させて頂いたり、施設の行事の納涼祭では地域の方と交流が持てるようにする。 (外部評価) 地区の敬老会、集会所掃除への参加や小学校の運動会見学や保育園のお遊戯会総練習の見学など地域との交流をしている。毎年恒例の納涼祭では、雨天にもかかわらず近隣住民や大勢の子供たち、他事業所GHの利用者と職員等の参加があり、カラオケボランティアの披露やスイカ割り等で賑やかな納涼祭となった。散歩や外出時に近隣住民と会話するなど日常的な交流もある。また、訪問調査日が地方祭当日と重なり、玄関先で牛鬼や五つ鹿踊りの舞いを見て笑顔で手拍子、拍手で喜ばれる利用者を見ることができた。昨日も祭りのため、保育園児の訪問があったりと確実に地域とのつながりは深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議時構成メンバーに認知症の人の関わり方などを、お話し理解して頂いたり演芸等のボランティア活動を通して交流することで理解支援を受けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議は年6回定期的に開催している。利用者様の状況、サービスの状況、問題や課題等の報告をして構成員からの意見を頂いている。利用者様も参加して頂いている。	
			(外部評価) 運営推進会議は利用者、家族、市担当者、民生委員、区長、近隣住民、他事業所GH職員など、幅広い参加者を得て開催されている。小学校・保育園関係者への参加を呼びかけたが参加には至っておらず、今後も呼びかける予定である。また、次回より地元消防団に参加をしてもらう予定である。会議では事業所の利用状況や活動報告を行い、参加者と意見交換をしている。管理者が区長へ「地域と今以上に関わりを持ちたい」と相談したところ、集会所掃除への参加を提案してもらい、管理者と利用者数名で参加した。事業所を知ってもらう良い機会となり、事業所自体が地域の一員となるよう取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 介護相談員の受け入れを行っている。入退所の報告、介護保険の更新の際、情報を共有している。	
			(外部評価) 市職員は毎回運営推進会議に参加し、事業所の利用状況や取組みについて報告し意見交換している。家族から住所地特例の相談を受けた際は、市担当者に相談し速やかに対応することができたへん喜ばれた。また、2カ月に1度、介護相談員の受け入れもあり利用者と話しやすい関係が築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 現在、拘束者はいない。居室、玄関に鍵はしていない。拘束について内部研修に参加し理解を深めている。	
			(外部評価) 職員が利用者に寄り添い見守ることで身体拘束をしないケアに取り組んでいる。今月の業務カンファレンスで身体拘束をしないケアについて勉強会を行う予定である。言葉での拘束についても職員全員で意識しながら適切な対応をするよう心がけている。日中は玄関の施錠をしておらず、利用者が自由に出入りすることができるよう配慮されており、見守りケアを徹底している。夜間のみ安全面に配慮し玄関の施錠をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員は内部研修に参加し勉強し報告書も提出している。特に、言葉使いについては、留意し職員みんなで気をつけるようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 内部研修に参加している。制度は知っているが実際に使っている方がおられるが一部しか解ってなく理解していない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所時は重要書類や契約の説明を十分に行っている。家族の不安や疑問をお聞きし、それに対して説明を行い入所後、不安を感じておられれば説明している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を設置している。日頃からの要望等を言いやすいような環境作りに努めている。 (外部評価) 利用者には日常生活の中で確認し、家族には毎月ホーム便り「蒼い月」を発送しホームの様子を伝えるほか、担当職員が手紙を添え近況報告を行い、ケアプラン見直しの際には必ず要望を聞くように努めている。また、面会時や家族会は利用者や家族の意見を聞く良い機会となっている。「歩行練習をさせて欲しい」など、家族からの要望にも早急に対応するように心がけている。「ここに来て表情が明るくなった」と喜ばれることもあった。玄関には意見箱を設置し意見を出しやすいように工夫をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者は毎月の業務カンファレンスで意見や提案を言える場や話し合いが出来る時間を取っている。その時言えなかった職員については、こまめに話を聞いたり、気づいた事が言える雰囲気を作っている。 (外部評価) 毎月、業務カンファレンスを開催し、勉強会や事例検討等、職員同士で活発な意見交換を行っている。現場での課題や意見を出し合い、申し送りノートを使用し職員全員で共有している。管理者は職員の意見を尊重しシフトを組むなど、コミュニケーションを図りながら、働きやすい職場環境や信頼関係づくりに努めている。献立委員から、野菜が高いため代替野菜へ変更の申し出があり、管理者は本部の了解を得て、別の食材で補うなど上手な活用方法をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 勤務帯で、負担がかからないように調整している。資格等により賃金面で配慮している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 年1回の内部全体の研修や職員会議後、勉強会を行っている。南予地区研修会には、個々の経験や能力を考慮し参加している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 施設の事業には、他のグループホームの入居者様、職員を招待して交流の場を設けている。推進会議では、他のグループホームと相互に出席して活動内容を参考にしている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者様の生活歴や生活リズムをお聞きし、何を必要としているか分かろうと努力している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) いつでも相談しやすい雰囲気作りをし耳を傾けて、相手の気 持ちになり一緒に取り組んでいく努力をしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) ご本人、家族様の希望や要望を考えた上で、どのようなケア プランが必要なのか話しあうようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) ご本人の意思、できる力を大事にし家事等も一緒にして頂き 感謝の言葉を伝え、また、知っておられることは、教えて頂 き助け合って生活してゆく関係を図っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 電話や面会時、ご本人の様子を伝え、互いに情報を相談しな がらケアに取り組んでいる。又、現在3か月に一度、お便り で近況をお伝えしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 利用者様のなじみの人との関係が壊れないように、家族、友 人が訪ねて来れやすいような雰囲気作りをしています。ご家 族に協力して頂き、行きつけの美容院に行かれている方がい る。 (外部評価) 日常的に家族や近所の方、併設のデイに来た知人の面会があり、盆と正月には特に多くの面会がある。外食に出掛けたり馴染みの美容室へ行ったり、お墓参りに行くなど家族の協力を得ながら支援されている。また近所の方との会話を楽しんだり、野菜などのお裾分けをもらうこともある。面会の少ない家族へは電話連絡するなど、少しでも馴染みの関係が継続できるよう支援に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者様同士が誘い合って食事時に声を掛け合ったりしている。また、洗濯たたみなどの軽作業を何人かで行っている。利用者様との間に職員が入り関係が多く持てるように話題を提供している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービスが終了した後も必要な時には、相談、支援について、いつでも連絡されるようお伝えしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入居前の生活を家族やご本人の聞きとりを参考にしている。ご本人の希望や意向が困難な時は、家族と相談しながら本人の立場になって思いをくみ取る。 (外部評価) 職員は利用者一人ひとりに向き合いながら、ちょっと小耳にはさんだことでも気に留めて思いや意向を把握するよう努めている。利用者の「栗が食べたい」「買い物に行きたい」という思いを聞き、栗ごはんを作ったりオズメッセに行くなど可能な限り実現できるよう努めている。食べ物の要望は比較的多いが、「ここでの生活にととても満足している。」「ここに来て状態が良くなった。」と嬉しい声を聞くこともある。また、思いを言い表すことが困難な利用者に対しては、ふとした時に出た言葉やしぐさから利用者の思いを感じ取っている。把握した情報は申し送りノートに記録し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前に本人、家族、利用していた事業所などの情報を頂きこれまでの暮らしの把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の申し送りや介護記録をこまめに行い、把握するよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ご本人や家族との話し合いにより、少しでも自己実現できるよう、介護計画を作成している。 (外部評価) 担当者会議には家族の参加も多く、利用者や家族の思いや意向を反映した介護計画となっている。担当者会議に欠席の家族には事前に要望を聞くようにしている。「歩行させて欲しい。」との要望でマッサージ等から始めるケースや、手先の器用な現在99歳の方の介護計画には「折り紙でいろいろな作品を作り続けたい」を目標にするなど、前向きに取り組めるように支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の暮らしの様子で、普段と何かが違うような気付きも記録し、介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ご本人、ご家族の希望に応じ通院、出張美容、理容、外出など柔軟に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の区長さん、小学生、中学生、公民館の方、民生委員、介護相談員等の支援を頂いている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) ホームのかかりつけ医による医療が行われることを説明し、 同意を頂いている。	
			(外部評価) 利用者や家族の希望で協力医療機関がかかりつけ医となっ ている。月に2回の往診と週に1回の訪問看護がある。緊急時 の医療連携が確実に行えるよう体制が整っている。専門医の 受診は家族の協力を得ているが、歯科は事業所の近くのため、 職員の同行で安心して継続受診できるよう支援している。また、 インフルエンザの予防接種は全利用者対象に接種 予定である。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 医療連携の看護師が一週間に一回、体調管理を行い、看護面 での気づきや利用者様の訴えを聞かれ看られている。職員 が、利用者様の体調が悪いところがあれば伝えている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院した場合、職員がよく面会し状況把握に努めている。ま た、必要に応じ洗濯物の支援を行っている。早期に退院に向 けての医師、看護師との情報交換を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ご本人にとって一番よい方法について、ご家族様とチームで 話し合っている。主治医と連携を密に取っている。	
			(外部評価) 看取りの経験があり、状況の変化に応じ、利用者や家族等の 意向をその都度確認しながら、思いを受け止め納得のいく穏 やかな最期を迎えられるよう取り組んでいる。また、職員の 不安解消に努めていくことも大切だと考え、本部での研修に 参加したり、事業所内でも勉強会を行い看取りケアに前向き に取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時は、医師、看護師に連絡し迅速に対応が行われるよう努めている。AEDや人工呼吸の講習会に参加し適切に対応できるよう努めています。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年3回の避難訓練を実施。消火器の使い方を職員体験しました。地震の時、利用者様の避難場所を把握している。運営推進会議の時、地域の方を含めた構成員の方に協力をお願いをしている。 (外部評価) 年に2回の防災訓練と年に1回の避難訓練を行っている。11月には地元消防団の参加を得て昼間帯の火災を想定して避難訓練を行う予定である。前回の避難訓練では2階、3階の利用者は階段を使って避難を行ったが、階段が狭くかなり時間がかかり、消防署からの助言があった。また、備蓄品はガスコンロ・ラジオのみ準備している。	避難訓練には初めて地元消防団の参加となるため、ぜひ具体的な協力内容などを話し合って欲しい。また、狭い階段での避難のため、近隣住民の協力は必要不可欠である。訓練への継続した参加協力を呼びかけ、さらなる協力体制が築けることを期待したい。また、管理者は備蓄品の用意が不十分であると認識していることから、内容や数量等を充実させていくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 人生の先輩として敬意を払い、ご本人の気持ちを大切にしながら、さりげない言葉かけやケアを心がけている。プライバシーにも気を付けている。 (外部評価) 一人ひとりの気持ちを大切にして、利用者の状況に合わせた声かけのタイミングや声の大きさに配慮した対応を心がけている。担当職員制を取り入れ、利用者の気持ちを大切にしたいケアを実践できるように取り組んでいる。また、馴れ合いを回避するために、担当職員の交代を必要に応じて行い、羞恥心や誇りを損ねない支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日々、日常生活の中でその時々に応じ希望にそえるよう支援している。特に行事を計画する時は、利用者様の希望を取り入れるようにしている。食の選択など自己決定できるよう働きかけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 体調や、過ごし方の変化に注意し可能な限り自分のペースで生活できるように支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 利用者の行きつけの美容院を利用している人もいる。外出される時は利用者様のその日の気分の好みの服で出かけれる様支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の下ごしらえ、味見、食器洗いなど分担し職員と一緒に取り組んで頂けるよう支援している。食事についても食べやすいような大きさにしたり魚の種類で食べれない方には、地の魚を準備している。 (外部評価) 献立は系列のGHが2カ月交替で作成している。事業所の献立委員が献立内容を確認し、利用者の希望を取り入れながら見直しを行っている。利用者と職員が同じテーブルを囲み和やかな雰囲気の中で食事をしている。支援の必要な利用者には、職員が横に座り利用者のペースに合わせて援助している。誕生会には手作りケーキ、お正月にはおせち、節分やクリスマス等季節を感じながら食事に楽しみが持てるよう工夫している。年に2～3回は外食し、先月は回転ずしを食べに行った。また、用意や片付けなど利用者と職員が一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事や水分摂取量を表にしている。一日を通して確保できるよう支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食事後、利用者の能力に合わせた支援（声かけ・一部介助・仕上げ介助）を提供し口腔ケアができるようにしている。週に一回、義歯の方のポリドントと、コップ、歯ブラシの消毒をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表があり排泄パターンを把握し、随時誘導している。	
			(外部評価) 排泄チェック表を活用して一人ひとりの排泄パターンを把握しており、日中はできる限りトイレで排泄できるよう努めている。ユニット内には4か所のトイレがあり、自立度に応じてトイレを選び使用している。リハビリパンツや尿パットを使用したり夜間のみポータブルトイレを使用したりするなど、利用者の状態に合わせて自立を促している。また、布パンツを使用する利用者もあり、用品の工夫を行いながら、一人ひとりの状態に合わせた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分補給、運動量、食物繊維のある食事などに心がけ、なるべく自然便を出されるよう支援している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) ご本人の希望時間に入浴している。一番風呂を好まれる利用者様は、職員が調整している。	
			(外部評価) 入浴は3日に1回を目安に回数を限定せず、利用者の希望に沿って、毎日いつでも入浴ができるように準備されている。利用者の身体状況に応じて滑り止めマットやシャワーチェアの使用、体調不良時には清拭を行うなど、気持ちよく安全に入浴ができるよう支援されている。入浴の苦手な利用者には、お気に入りの職員からの声かけやタイミングを工夫するなどの支援をしている。また、入浴の着替えの準備は利用者と職員が一緒に行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 基本的に一日の流れは決まっているが、ご本人の体調等で変更して休んで頂けるよう配慮している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬の内容について全職員で共有している。必要な時は医師、看護師に相談しながら支援している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 特に身体に問題がない限り制限は設けていない。いつでも、好きなことができるよう援助し笑顔でいられるよう、努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 行事で、みんなで外出する機会以外にも、体調良く散歩が可能な限り、田んぼや草花を見ながら外気浴出来るよう支援している。 (外部評価) 日常的に事業所周辺を散歩したり、玄関先で外気浴したりして気分転換できるよう努めている。また、読書の好きな利用者と一緒に近くの公民館まで本を借りに行ったり、郵便局に手紙を出しに行ったりと、外出の機会が多い。年間行事としてフラワーパーク、おさかな館、新谷菖蒲園等、季節毎の外出支援を実践している。11月には紅葉狩りを予定している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご家族からお金を預かっている利用者様が、ほとんどです。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご本人の希望の時はすぐできるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共有スペースに季節の花を飾っている。また、外を眺めれるようになっている。田んぼが見え稲の生長、収穫まで見える。ベランダもあり、日なたぼっこされたり、風に当たったりされている。 (外部評価) 暖かい光が差し込み明るく落ち着いた雰囲気の空間となっている。対面キッチンから全体を見渡すことができ、利用者は自由に行き来している。壁には利用者の作ったわらじや折り紙の作品を展示したり、利用者と一緒に作った紅葉の飾り付けや洗面台の生け花等季節を感じることができる。利用者は畳のコタツで自宅から持参した座いすに座りくつろいだり、テレビを見たり、おしゃべりを楽しんだり、思い思いの場所で穏やかな時間を過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共有空間で、畳の場所があり、会話したり、テレビを見られたり横になりリラックスされたりしている。居場所確認や見守りながら、ゆったりと思い思いに過ごせるよう配慮している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ご本人の使われていたもので、仏壇を持ってこれられ居心地よく過ごされている利用者様もおられる。環境整備にも配慮している。 (外部評価) 居室には、ベッド、整理ダンス、洗面台、エアコンが備え付けとなっている。仏壇や位牌、テレビやイスを置いたり、家族写真や曾孫さんの写真を飾ったりと使い慣れたものや好みのもを持ち込まれ、利用者が居心地よく過ごせるような部屋づくりがされている。また、入口にはかまぼこ板で作った名札が掛けられ、裏には「避難済み」と記入し、災害時に備えた配慮もしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下やトイレに手すりを設置している。居室が分かるように表示している。ベットからの立ち上がり時ふらつきのある利用者様には、滑って転倒しないように敷物をしている。	